

令和5年第4回三笠市議会定例会

令和5年12月15日（2日日）

○議事次第（第2号）

- 1 開議宣告
- 2 議 事
- 3 散会宣告

○議事日程

- 日程第1 一般質問
- 日程第2 議案第73号から議案第81号までについて（総合常任委員会付託）
- 日程第3 議案第82号から議案第84号までについて

○出席議員（10名）

議 長	9番	武 田 悌 一 氏	副議長	5番	折 笠 弘 忠 氏
	1番	青 木 康 博 氏		2番	池 田 真 志 氏
	3番	須 河 恵 介 氏		4番	浅 尾 三 吉 氏
	6番	畠 山 幸 氏		7番	澤 田 益 治 氏
	8番	谷 内 純 哉 氏		10番	谷 津 邦 夫 氏

○欠席議員（0名）

○説明員

市 長	西 城 賢 策 氏	副 市 長 兼 総務福祉部長兼 総務福祉部参事兼 危機管理室長事務取扱	右 田 敏 氏
総務課長	萬 年 剛 至 氏	企画財政部長	三 好 智 幸 氏
企画調整課長	藤 井 陽 一 氏	税務財政課長	坂 保 徳 氏
産業政策推進部長	中 原 保 氏	商工観光課長 特産品開発推進係長事務取扱	下 村 圭 氏
建設部長	松 本 裕 樹 氏	教育長兼教育次長	小 田 弘 幸 氏
教育委員会参事兼 高校生レストラン統括長事務取扱	阿 部 文 靖 氏	社会教育課長兼図書館長	若 山 勇 治 氏
高等学校事務長	杉 山 充 氏	病院事務局長	高 田 進 氏
消 防 長	田 川 善 幸 氏	監 査 委 員	鈴 木 信 之 氏

監査委員事務局長 後藤 議 徹 氏

○出席事務局職員

議会事務局長 柳 谷 忍 氏 議会係長 青 山 初 美 氏

◎議長（武田悌一氏） 開会前ですが、報道機関から撮影等について申出がありましたので、許可しております。

開議 午前10時00分

◎開 議 宣 告

◎議長（武田悌一氏） ただいまから、本日の会議を開きます。
これより、議事に入ります。

◎日程第1 一 般 質 問

◎議長（武田悌一氏） 日程の1 一般質問を昨日に引き続き、行います。
通告順に従い、8番谷内議員、登壇願います。

（8番谷内純哉氏 登壇）

◎8番（谷内純哉氏） 令和5年第4回定例会に当たり、通告順に従い質問させていただきますので、御答弁のほどよろしくお願いたします。

冒頭、今この時代に戦争が勃発していること、2022年2月からウクライナ戦争が始まり、多くの民間人、幼い子供たちが犠牲となっております。そのことを思うとき、本当に心が痛みます。「日本一安心して誰もが暮らし続けたい自然豊かな元気田園産業都市」を目指している三笠市、三笠市の人口の何倍もの幼い子供たちの命、そして親たちが犠牲になっています。戦争のない日本、日本一安心して暮らせる三笠に連れてきたいと思うのは、私だけでしょうか。みんなが笑顔で暮らせる世界であってほしいと願う今日この頃でございます。

改めて質問をさせていただきます。

1点目、運動公園についてであります。

運動公園については、三笠ドームを中心に陸上競技場、ナイター付テニスコート、市営球場とスポーツに特化した施設として整備されました。現在、三笠高校生レストラン等の教育施設も併設されて、三笠市民だけではなく、市外各地からお客様が来られており、しっかりとしたサービスが求められています。

運動公園の利用については、利用料を取っていると思いますが、特に市営球場、陸上競技場の令和5年夏期の利用状況についてお聞かせください。

次に、今後の施設のあり方について、利用頻度などによる優先順位があると思われませんが、施設整備の状況と問題点についてお聞かせください。

2つ目に、文化継承についてであります。

どの時代も、どの地区にも、歴史ある文化が根づいていると思います。本州のように300年、500年と歴史の長く深い文化などは北海道、三笠市には、まだまだ歴史の浅い

地区であります。先人の方々が残した文化をどうにかして我々が残していくことが責務と
思います。

そこで、北海盆おどりについてであります。北海盆おどりに欠かせない北海盆唄は、三
笠市が発祥の地として北海道、全国にも知られ、盆唄に合わせた盆おどりには毎年多くの
人が訪れてにぎわいを見せております。

そこで、北海盆おどりに欠かせない盆唄、太鼓、踊りの甚句等の関係する団体存続と今
後のあり方など、どのように進めていくか、行政、所管の教育委員会としての立場からお
聞かせください。

以上で、登壇での質問を終わります。よろしく答弁のほどお願い申し上げます。

◎議長（武田悌一氏） それでは、運動公園について答弁願います。

社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 三笠運動公園内における使用料が生じるスポーツ施設
は、全部で9施設となっております。屋内施設では三笠ドーム、スポーツセンター、温水
プールなど6施設、屋外施設では市営球場、陸上競技場、テニスコートの3施設となっ
ております。

屋外施設については、10月末で冬期閉鎖となっており、令和5年度の利用状況が確定
しておりますので、それぞれの施設の利用状況について御説明いたします。

まず初めに、市営球場については、利用人員が3,088人で、利用料金は14万1,2
30円、利用団体は中学生の硬式野球のクラブチームや社会人野球のクラブチームが主な
利用団体となっております。

次に、陸上競技場については、利用人員が3,665人で、利用料金は6,210円、利
用団体は三笠F Cと空知サッカー協会が主な利用団体となっております。

最後に、屋外施設のテニスコートになりますが、利用人員につきましては1,318人
で、利用料金は11万3,980円、利用団体は三笠テニス協会をはじめ、市外の中学校
の軟式テニスクラブなどが主な利用団体となっております。

コロナ前からコロナ後までの比較した場合の利用者についてですが、市営球場につつま
しては、令和元年で3,614人、令和2年につきましては1,998人、令和3年につつま
しては469人、令和4年で3,879人となっております。

陸上競技場につきましても、令和元年が3,058人、令和2年で1,419人、令和3
年1,620人、令和4年で3,477人となっており、コロナ前の利用水準に戻ってきて
いる状況となっております。

テニスコートにつきましては、令和元年が3,175人、令和2年で2,841人、令和
3年で2,182人、令和4年で1,442人と利用者が減少しておりますが、これは硬式
テニス少年団が活動場所を三笠小学校の体育館に変更したことが減となっている主な要因
となっております。

それ以外の利用状況につきましては、少しずつですが、コロナ前の水準に戻ってきてい

る状況となっております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 再度質問させていただきます。

陸上競技場については、何年も前に公式陸上競技の認定を断念したという経過があります。今、小さな子供たちが、かなり遠くのところから来て陸上競技場を使っております。これは大変いいことだと思いますし、コロナ禍を過ぎてからも、このように今言われたとおりだんだん利用者が増えてきているということもあります。大変うれしいことだと思っております。

そこで、市営球場のトイレが中と外と利用できないということがありました。その辺を詳しくお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員、今、再質問されましたけれども、答弁のほう、実は最初に言っていた答弁が、まだ1つ現状と問題点についても答えが出ていなかったものから、その答弁と……

◎8番（谷内純哉氏） 1つずつ。

◎議長（武田悌一氏） 1つずつのほうがいいですか。

◎8番（谷内純哉氏） いいですか。

◎議長（武田悌一氏） そうしたら、今の……

◎8番（谷内純哉氏） 今のところで1回。

◎議長（武田悌一氏） の答弁をお願いします。

社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） すみません。

今後の施設のあり方につきまして、私のほうからもう一度答弁いたします。

（「逆です」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） それ、今言ったやつです。

（「トイレで」の声あり）

◎社会教育課長（若山勇治氏） 分かりました。すみません。

市営球場のトイレにつきましては、屋外用と屋内用トイレの2か所があり、屋外用のトイレにつきましては、正確な年数は把握できていないのですが、汚水配管の老朽化により汚水が漏れることから、約20年ほど前から閉鎖している状態となっております。利用される方につきましては、屋内用トイレと球場横にありました24時間トイレで対応していただいております。

今年の8月上旬に屋内用トイレにつきましても汚水配管からの漏水が確認されたため、8月から10月末の冬期閉鎖までの約3か月間、トイレを使用中止にいたしました。当初は球場自体の使用を中止することも考えたのですが、10月末までに利用される団体が7団体であったため、団体の代表者全てに屋内用のトイレにつきましても故障により使用することができない旨を説明するとともに、球場以外のトイレを使用する場合には、少し離

れた場所にはなりますが、陸上競技場のトイレや子ドームトイレを使用することを前提に了承いただいたことから使用に至りました。

なお、屋外用と屋内用のトイレにつきましては、来年修繕する方向で検討している段階となっております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 今年、外のトイレを解体いたしました。445万5,000円かけて解体したと思われかもしれませんが、今、予算を要求していると言われてましたが、この屋外、屋内のトイレ修繕に係る予想される金額というのは、今、分かりますか。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 今、見積段階となつてはいるのですが、概算値では配管部分だけで1,300万円ぐらいの予定となっております。屋内、屋外両方整備することを考えた段階なのですけれども、あと、なおかつ配管以外に中の便器ですとか、それをどのぐらいの規模にするかによって金額が変わるという話になっているのですが、約2,000万円弱程度が予想されております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 私も悪いと思うのですが、その解体する前に外のトイレを解体するか建て直すかという議論させていただいたことがあると思いますが、今、見ますと2,000万円、解体費を入れると2,500万円、もう少し足せば建て直せたのではないかなど、そういう思いがあります。市民の皆さんから、このトイレは必要だよと、ぜひ建て直してほしいなという意見を聞かせていただきまして、その気持ちがなかなか議会で届けられなかったことを、私は今、反省しているところでございます。

そういう意味では、野球場については、リトルリーグは札幌から何チームでしょうかね、リーグ戦を市営球場でやっています。そのときの両チームのお母さんが、そのときは屋内の事務所の中のトイレを利用したということでございますけれども、いつもきれいにさせていただいたトイレを使わせていただいて、老朽化していますから、きれいといっても、それなりの掃除をしているきれいなトイレを利用させていただいております。大変うれしく思っていますということで、トイレトーパーを2個、お手紙つきで球場の事務所に置いていかれた。これは管理している三翔さんの事務の方から、それを直接お聞きしました。それも実際見せていただきました。大変うれしい話でございまして、そういう意味では、今年そういう野球場を利用する、そのリトルリーグではないかもしれませんが、あるチームがトイレが使えないので今回は見送りたいということも現実あったようでございます。そういうことから、ぜひ今、予算要求している、使えるようにしていただきたいと思っております。

それと、今までの24時間に特化してまたしつこく言いますけれども、朝散歩している方が多いのですね、三笠の高齢者の方々。ちょうどあそこの24時間のトイレと柏町の墓地のトイレ、あそこをトイレ場所に行っているそうです。毎日同じ場所ではなくて、2コー

スに分かれて散歩している。その一部がなくなったことによって、その辺も市民から言われたことでありますけれども、なかなか私もそういうことを熱意を持って伝えることができなかったこと、大変反省しているところでございます。

そこで、今年、市立病院の空知大会が、病院関係の試合がありました。三笠は残念ながら負けましたけれども、来年度、全道大会が三笠で行われます。間違いのないですね。それで、三笠は地元なので推薦枠ということで出ます。そういうことで、トイレに限らず球場も整備をしていただくように前回僕も話しましたがけれども、細かいところはファウルグラウンドの線のところに雑草が生えているとかいろいろあります。そういうところもぜひ見直して直していただきたいと思っております。

そういう僕の思いもありまして、次、そういう意味では、今後の施設のあり方について利用頻度による優先順位があると思われませんが、施設整備の現在の状況と今後の問題点についてお聞かせください。

◎議長（武田悌一氏） 教育長。

◎教育長（小田弘幸氏） 市営球場の関係についての答弁をさせていただきますけれども、まず、あそこの多目的トイレを今年解体させていただいて、そのときの議論と申しますのは、ちょっと市営球場も絡んではいるのかも分かりませんが、あそこの多目的トイレをどうするかということでまず1点問題がありまして、あれにつきましては400万円ちょっとかけて解体をしたという形で、それとは別問題で、例えば市営球場に対しまして表側のトイレがそれは20年間使えなかったということで、その部分で多目的トイレを使っていたのかも分かりませんが、やはり球場自体にトイレがなければいけないという問題が、これは一つの問題としてあると思っております。多目的トイレは多目的トイレで別な目的としてあった部分があるものですから、そして多目的トイレの代わりといたしまして、子ドームトイレをその代わり24時間使えるようにしておりますので、例えば朝の散歩ですとか、そういったものにつきましては、そちらのほうのトイレで済ませていただくというか、用途を変更していると申しますか、そういったことで目的を達成しているのかなど。

問題は、球場のトイレという形になりますけれども、表のトイレにつきましては、二十数年来、故障で使っていないと。それと、中のトイレにつきましては、今年8月にやっぱり故障していることが判明した部分があるものですから、そこについては当初多目的トイレを2,500万円建て替えると言ったときの部分と条件が違ってきている部分がございます、それとあと若山課長のほうで2,000万円近くかかるというふうにお話はしたのですが、これも本当に直近で分かった状況で、まだ財政当局含めて私ども話をしていなくて、なかなかちょっと今の部分で、お互いに共有ができていない部分があるものですから、一応そういった検討したいという部分はございますけれども、トイレについては、どうしてもやっぱり球場、施設維持をするとなると必要な部分があるものですから、今後どのように、2,000万円かかるということも含めて、どうやって圧縮でき

るのかという部分も含めて、いろいろと方策等を検討した中で対応していきたいというふうに思っております。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 私のほうから、今後の施設のあり方について答弁させていただきます。

議員から今年6月の第2回定例会において、運動公園の施設のあり方に対する質問をいただいております。答弁としましては、今後の施設のあり方につきましては、その方向性に結論づけができ次第お示ししたいという答弁をさせていただいておりますが、現段階においてはまだ検討中であり、各施設を維持していくことを前提に、利用者に危険がないよう安全面を最大限に考慮し、修繕するための優先順位を決めた中で施設の修繕を行い、指定管理者と連携を図りながら日々の維持管理に努めております。

今後の施設のあり方につきましては、スポーツの推進を図るためには全ての施設を維持管理していくことが望ましいと思われませんが、多額な修繕費用が必要とされる施設もございますので、施設の状態、利用状況等、様々な角度から検証し、適切な施設のあり方について今後も継続協議をした中で方向性をまとめていきたいと考えています。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 今、教育長言われたこと、大変よく分かりました。ありがとうございます。

ただ、思いとしては、今あったところ、十分使っていただいていたところがなくなって、果たして、川ごと、小さな川ですけれども、どうして遠くに行くのか、多目的という意味では、そこでいいのかもしれませんが。

球場の外のもう何年も前に壊れたとき、壊れたらすぐ直すのが普通のように思うのですが、それはなぜ直さなかったのですか、もし分かれば。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） はっきりとした経過は正直押さえてはいないのですけれども、想定されるのは、24時間のトイレがございましたので、屋外の利用に関してはそれに対応してきた経過と押さえております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 外にもありますので、そういうことだと思いますが、普通一般的に家のトイレが壊れたら直しますよね。どの施設も何か壊れたら直すような気がします。そういう思いがあります。

せっかく遠くから来て、僕の同級生が、各地の同級生の友達が全道大会を三笠の球場でやってくれました。8月何ぼかな。そのときにもうトイレは使えなかったのですけれども、その友達が三笠に来るということで40年ぶりに僕はお会いして、僕も応援に行ったのですけれども、その応援しに来た友達の両親がトイレがなくて大変苦労して、いや、やっとトイレへ行ってきたよというその言葉にひどく胸を打たれまして、僕はもう代表し

て、大変申し訳ない、こういう状況なのでと理解をしていただいて、そういうこともありました。いろいろ状況もあると思いますけれども、せっかく遠くから来られる方に、楽しくというか、環境のいいところで利用していただきたいなと思っております。そういうことをお伝えしながら、この運動公園については終わらせていただきます。ありがとうございます。

◎議長（武田悌一氏） 教育長。

◎教育長（小田弘幸氏） 今おっしゃったとおり、そういった環境の整備等に努めていきたいというふうに思っておりますけれども、やはり三笠市全体的な部分の、そういった運動施設等を含めて、かなり老朽化が進んでおることは間違いなくて、今までもそういった中で修繕という形になれば、安全性を第一に考えて修繕をしてきたわけでございますけれども、今後の施設のあり方という部分を含めて、多額な費用がかかる施設、多々ございます。そやはり市民の利用頻度ですとか、そういった部分含めて、そういったときに総合的なことを考えて、施設全体については維持したいなという気持ちはありますけれども、状況等も含めてやはり今後その辺は考えていきたいというふうには思っておりますので、まずは安全第一に施設を維持していくということを前提に今のところは考えている次第でございます。

◎議長（武田悌一氏） よろしいですね。

次に、文化継承について答弁願います。

社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 私のほうから、北海盆おどりについて答弁いたします。

8月のお盆に開催しています三笠北海盆おどりには、市内の方はもとより、帰省される市外からの方を含め、毎年たくさんの方々に御参加いただいております。

平成4年に三笠が北海盆唄発祥の地として日本民族音楽会で認定され、平成5年より北海盆唄全国大会を開催、また、平成13年には開庁120年を記念し巨大やぐらを建て、翌年の平成14年より第1回三笠北海盆おどりを開催し、今年で22回目を迎えました。

この三笠北海盆おどりの運営に当たっては、北海盆唄を歌う方、おはやし、笛、太鼓など演奏を中心に協力していただく方々のほかに、踊りの輪の先頭に立ち、踊りを盛り上げていただいている三笠甚句保存会などの協力の下で成り立っております。

各団体の現在の状況についてですが、歌とおはやしについては、三笠民謡連合会が中心となっており、会員数は大人6名、子供4名、合計10名となっております。太鼓につきましては三笠太鼓が中心となっており、会員数は大人10名、子供11名、合計21名となっております。また、三笠甚句保存会につきましては、会員数は大人7名となっております。各団体ともに会員数の減少や高齢化など様々な問題を抱えていることから、これからの活動をどのようにしていくのか、また、存続等も含め、どう改善していくことが望ましいのか、各団体と協議をした中でいろいろと模索し検討している状況であります。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

北海盆おどりについては、歌もそうですし、太鼓もそうです。これが存続が怪しくなり、なくなってしまうようなときに、CDになっていいのかという問題があります。先ほども登壇で言いましたように、そういう伝統をしっかりと引き継いでいかなければならないなと思っております。そういう意味で、三笠の財産である北海盆唄、北海盆おどりという郷土文化をこれからも継承して守っていかねばならないと思っています。

また、第9次三笠市総合計画の中にもありますけれども、「三笠らしさを演出する芸術文化活動を推進するため、市民に参加の機会を提供し、芸術文化に対する意識の高揚を図ります」と書いてあります。これは人ごとではなくて、三笠市民がやっぱり意識を持ちながら盆踊りというのを育てていかなければならないのではないかと考えております。

そこで、各団体の会員が減少していく中で会員を増やすためにどのような取組をしているのか、今の現状をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 会員の募集につきましては、広報での周知をはじめ、公民館や学校などにポスターを掲示し周知を図っているほか、土曜学習や放課後子供教室などで各学校に出向き、民謡や踊り、太鼓の演奏などに触れる機会をつくり、PR活動も実施し、太鼓につきましては、小学生の会員が増加したほか、大人の会員についても30代から50代の会員が新たに5名ほど入会するなど、一定の成果は出ていますが、全ての団体について会員の増加にはなかなか結びついていない状況であります。

また、今年の盆おどりのときに、新たな取組として、会員以外の方に歌い手、太鼓、踊り、それぞれについてイベントのときのみの応援という形で御協力いただいた経過がございます。今後は、通常の会員の募集のほかに、このようなイベント時の短期間だけでも応援、協力していただける人の募集を図るなどの方法も、これからの時代には必要なのではないかと考えております。

北海盆おどりは、三笠市にとって大変貴重で重要な郷土文化であります。今後もこれらの郷土文化を保存、継承していくために様々なやり方を模索し、各団体と協力し北海盆唄、北海盆おどりの普及促進に努めていきたいと考えております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

今回、このことについてなぜ質問したかということ、三笠太鼓の方々が本当にたたき手がいなくてということもあります。また、甚句の方も高齢化が進んで会員が減少し、踊りたくても1周2周したら休み休み踊っているのですよねと、そういう声も聞きます。

そういった意味で、大きな意味で今質問させていただいておりますけれども、三笠太鼓に特化して僕の思いも伝えたいと思いますが、北海盆おどりの太鼓というのは、僕が知る限りでは、昔、炭鉱が盛んな時代は、それぞれの地区でたたき方が違ったように感じます。近所のおじさんも自分流のたたき方がある、歌となかなか合わない、もう勝手にたた

いているというようなこともあったようです。そういうこともあったのですが、僕が高校生ときの音楽の先生、石田先生という方がそれを譜面に起こしました。それが今のたたき方の基本になっているそうです。その石田先生も各地を回ってたたき方を見て、これが一番いいだろうということで譜面に上げたそうです。それがもし間違っているならご指摘いただきたいと、僕の記憶ではそういうことをごさいます。そういう意味では、今言われましたように、会員増強のためにポスター、僕、三笠高校も出入りしますが、ちゃんとポスターを貼っています。何年か前にも生徒さんが2人かな、3人かな、ちゃんといましたけれども、卒業しますので三笠から離れてしまうので、そういうことだと思います。

また、僕の高校生ときのその譜面に上げたやつが、音楽のテストの一つだったので。一人一人先生に呼ばれて太鼓をたたいて、それが点数になっていたということでもありますので、今その譜面を見れば、僕も少しは練習すれば思い出して弾けるのかなと思います。ここにいる武田議長も、小学校、中学校のときから太鼓の会員だったそうですから、そういう方もいますので、そういう意味では譜面を見て、三笠太鼓さんだけに頼るのではなくて、もし機会があったら、毎週月曜日に練習しているそうですので、機会があれば誰が、誰でもたたけるような、そういうときにたたけるような、そんなふうにしてみたいなという思いがあります。

また、歌については盆唄がありますから、歴代の優勝者が来て歌ってくれて、本当にすばらしい歌をいつも聴かす、それをなくしてはいけないような気がします。あと、そういう歌い手が、三笠の盆唄も僕、何回か見に行きましたけれども、地元からの参加者が少ない、そんなふうに見受けられます。何でも僕がやる、私がやるというわけではなくて、そういう意識を持っていただきたいなということを思います。そういう思いを伝えながら、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（武田悌一氏） 教育長。

◎教育長（小田弘幸氏） 今、谷内議員がおっしゃったとおり、北海盆唄、北海盆おどりにつきましては、三笠市の本当に重要な文化として継承していかなければいけないというふうに私も思っておりますし、後継者問題ということで、常日頃から私たちもやはり懸案事項として捉まえておりまして、そういった部分含めて、今後も各団体といろいろと協議をしながら、そういった伝承を守っていけるようなことをしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎議長（武田悌一氏） 以上で、谷内議員の質問を終わります。

最後に、10番谷津議員、登壇願ひます。

（10番谷津邦夫氏 登壇）

◎10番（谷津邦夫氏） 第4回定例会に当たり、通告順に従ひ御質問申し上げますので、御答弁よろしくお願ひ申し上げます。

1つ目には、行財政運営についてであります。

市職員の人事行政については、継続した質問でございます。春の地方選挙後、市長から

市政執行方針で、多様化する行政ニーズや新たな行政課題に柔軟に対応できる効率的で機能的な行政体制を確立することなどを表明いたしました。その後、7月には大幅な人事異動を実施し各職場へ職員を配置し、職員はそれに応じて創意工夫しながら職務に頑張っている現状にあります。

しかし、3年前から新型コロナウイルス感染症対策の名目で自治体へ地方創生臨時交付金が国から交付され、職員は新規事業の増加で、時間外労働の慢性化が続いています。また、コロナ禍が一定程度に落ち着いたことから、各種イベントや諸会議が開催され、職員は総がかりで取り組んでいるとのことですが、厳しい職場環境の中、健康を害し、長期療養や退職者が出ております。

そこでお尋ねいたしますが、1つ目に休職・退職者の補充についてと新たな人員配置についてお聞かせいただきたいと思っております。

2つ目には、行政の最前線で働く若い職員が意欲を持って働ける職場にするためにも、時間外労働とそれに見合った勤務手当の支給状況についてお聞かせいただきたいと思っております。

続いて、ふるさと納税についてであります。

返礼品の見直し対策についてお聞かせください。

当市は、2022年度のふるさと納税寄附総額は前年の3.3倍の17億9,571万円と急増し、過去最高を記録して財政運営に大きく寄与しております。その要因は、空知産米を発送する返礼品のメニューを2021年度途中に導入したところ、全国的に人気を呼んだことで納税額は15億1,132万5,000円になりました。

そこで、お尋ねいたしますが、空知産米はともかく、三笠産米は1,870万円と納税額が少ない現状であります。総務省は、本年10月からふるさと納税をめぐり、経費の算定方法や返礼品のルールを厳格化いたしました。将来のふるさと納税の先行きを考えるとき、返礼品として認める地場産品の要件や登録方法がさらに厳格化していく要素があることから、今からその対策が必要と思っております。

現在、海産物や肉、米といった人気返礼品の産地や加工場の実施自治体に寄附が集中している状況にあります。この際、三笠産米を地場産品として精米できる加工場の誘致を考えてほしいと思っておりますが、返礼品の米の見直し対策について見解をいただきたいと思っております。

次に、市民参加のまちづくりについてであります。

市政への参加方法についての市政懇談会のあり方について御質問いたします。

市長は、市政執行方針で協働・市民参加については、デジタル技術を活用して市民が市政に参加できるシステムづくりの構築を目指すと明言しております。まちづくりは市民一人一人が自ら考え、行動することによる自治が基本であります。そのためには、まちに関する様々な情報や、まちづくりに対する考え方などが市民へ十分に提供され、説明されていかなければなりません。市民参加の概念は広範であります。市政への参加方法の一つ

として長い間、毎年1回、市政懇談会を開催している現状にあります。

開催に当たり、行政担当課の事前準備業務や旧地区連合町内会の対応などに多くの時間を費やされていると思います。市政懇談会の本番当日も年々参加者も減少しているのではないかと思います。現状のあり方についてお聞かせいただきたいと思います。

次に、経済・産業の活性化についてであります。

次世代半導体産業について御質問申し上げます。

次世代半導体製造拠点の実施を契機とした経済効果や関連産業の集積については、現在千歳市を中心に進められ、各自治体から注目を浴びております。北海道は、7月にラピダスの進出をめぐり、周辺の石狩、胆振、南空知地域でつくる連携組織を設置いたしました。道が窓口になり、工事の進捗状況なども市町村側に提供し、市町村側から上がった要望や提案もラピダスに伝えて、連携を加速させるとしております。

そこで、お尋ねいたしますが、北海道の連携会議の下部組織として当市も参画している市町村ネットワークがございます。現在、ラピダスなどの情報共有や意思の疎通を図るためにどのような取組を図っているのか、また、目新しい情報があれば聞かせていただきたいと思います。御答弁をよろしく願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） それでは、初めに行財政運営について答弁願います。

総務課長。

◎総務課長（萬年剛至氏） 私からは、市職員の人事行政について答弁させていただきます。

まず1点目に、休職・退職者の補充と人員配置についてでございますが、一般事務職員の求職者と退職者数につきましては、前年度では休職者5名、退職者は11名でございました。これに対して令和5年度の12月1日現在では、休職者は2名、退職者は9名となっております。休職者、退職者の補充につきましては、職員の採用を積極的に進め、今年もこれまでに採用試験を5回、今後も2回の採用試験を行いたいと考えておりますが、その中で適正配置を行うように努力しており、一部にはまだ不足している所管もございませうが、そのような所管につきましては、係内や課内または部内での対応のほか、会計年度任用職員の採用によって埋め合わせていただいで、早期に職員を配置できるような対応を進めているところでございます。

続きまして、2点目となります時間外労働と勤務手当の支給についてでございますが、時間外労働とその手当につきましては、当市の規則で定めておりますが、1か月45時間、年間で360時間を基本とし、他律的業務の比重が高い部署、ほかの部署に業務量や時期が影響されやすい部署におきましては、1か月100時間未満、年間720時間を上限としております。

その中で、時間外勤務の実態といたしましては、令和元年度から令和4年度におきまして時間外勤務の多い所管は、総務課、税務財政課、企画調整課、商工観光課、学校教育課の5課で、いずれも職員1人当たり年間300時間を超えているところがございます。また、

一般事務職全体での平均時間外につきましては、令和4年度で1人あたりは167時間となっております。前回の答弁した中で令和3年度では1人あたり143時間とお話ししておりました、少し増えておりますが、このことは、議員の御質問にもいただきましたとおり、コロナ関係の業務や物価高騰に係る業務などがまだ続く中で、徐々にイベントなどの再開も進んできているといったことによる増というふうに分けております。

また、時間外手当の支給につきましては、年度当初に過去3か年平均から係単位で時間の配当をしております、その中で平日時間外と休日の出勤手当を出しておりますが、当初の配当上限は1人あたり360時間としております、業務の状況によりまして課内、部内で配当時間の融通などもした上で、ただ、時間外としてつけられた部分につきましては、現在、全て支給をさせていただいているところでございます。

また、時間外勤務を代休として処理しているという所管もございまして、そうした所管につきましては、各所属長に対し、当該職員が代休消化できるように、代休の早期取得の指導も行っているというところでございます。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 私のほうから、ふるさと納税の米の部分について答弁させていただきます。

今年の10月から議員御指摘のとおりルールが変わりまして、総務省でふるさと納税返礼品等の経費に関わるルールの見直しが実施されたところであります。その中で米に関する見直し内容につきましては、まず1つ目としましては、精米は基本的に加工とならないこと、そして2つ目としましては、自らの市町村で生産された米以外を精米加工して返礼品とする場合、市町村が属する同一都道府県内の米に限るとされたところでございます。

それで、従前から三笠産の米、それから玄米の返礼品については大変好評を得ておりまして、市内の農家の皆様に返礼品として出荷いただいた中で、引き続きPRを図り、寄附を今後募ってまいりたいと考えております。しかし一方で、市内で生産されるお米の量には限りがあると認識しておりまして、各農家の皆様で出荷先もある程度決まっているというふうに分かっているところでございます。三笠産の米が確保できなければ、今後の寄附額に影響が出ることも想定されることから、国、総務省のふるさと納税に関わるルールが今後どのような改正があるのかはちょっと分からないところもございまして、三笠産の米を基本としつつも一定の収入に向け道産米も出せるよう、市内において精米所の誘致に今年の9月から取り組んでおりまして、これをいち早く実現したいと考えているところでございます。

前年度はコロナ禍の巣籠もり需要、これの増加があったと考えていますが、本年度も今回の補正におきまして8億円を補正しまして、前年度とほぼ同額となる総額18億円の寄附を見込み、補正を提案させていただいたところでございます。今後も、PRを含めた創意工夫に努め、寄附額の確保に努力してまいりたいと考えているところでございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） それでは、順番を追って質問させていただきます。

初めに、この時間外の関係でいろいろと以前から質問させてもらっていますが、ここで1人平均、昨年12月でしたから約1年後、1人当たり143時間が逆に167時間と時間外が増えているのですよね。これは先ほど答弁にもありましたけれども、コロナ禍の影響と、これが慢性化しているという現実なのですよね。このことが非常にやっぱり特に若い職員だとか、あるいは体を害している方々にプレッシャー的な要素というのが大きいなという気がしております。総合的にメンタルヘルス対策的な要素もどうしても考えていかなければならないと思っています。特に各職場の業務量、それぞれ恐らく点検しているのかなと思うのですけれども、その辺はどのように考えているのかなと。特に、体を壊して少し休職し、また復帰したときに、復帰後のケア、フォローといいますか、そういう体制が必要というふうに感じているのですが、その辺ちょっと聞かせてください。

◎議長（武田悌一氏） 総務課長。

◎総務課長（萬年剛至氏） 時間外勤務が多い職場は、確かにございます。そうしたところにつきましては、毎月、時間外勤務の量が上がってきた段階で、所属長を通じまして私のほうから直接業務の見直しや再点検の依頼をして、特定の職員が突出しているところ、時間外が多い部署につきましては、業務そのものの分担の見直しによる標準化をどうか職場内で進めるようにと依頼しているところでございます。新規事業や業務の状況に応じて時間外が常時ではなくてそのときだけ増加する所管におきましては、応援や課内や係内分担で少しでも偏りを減らすような指導も併せてやっているところでございますが、中には、突発的に新型コロナのように来るものについては、やはり予定していない時間外を職員に負わせざるを得ないといった状況も確かにございます。

ただ、そんな中でも職員全体がうまく仕事を回せるように、心のバランスを崩さないように、逐次、所属長を通じて係長と連携してメンタルについてはケアしていただきたいというのは再三指導しておりますし、今後も続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） そこで、残業の多い職場、先ほど5つの課を挙げましたけれども、今回も全くこれは変わらないという、そういう認識でいいのかなということが1つと、それと職員の定員計画、165名ですよね。実態として、昨年12月であのときに10名不足していたといったかな。今現在、直接的に言うとな名不足しているのでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 総務課長。

◎総務課長（萬年剛至氏） まず初めに1点目、360時間を超えるような職員数といえますか、5課、業務量が特に多いところの部署の時間外につきましてはなのですが、そこだけに限らないのですけれども、まず時間外勤務自体が360時間を超える職員という言い

方をしますと、前回の答弁では19名というふうにお答えしておりました。ただ、この点につきまして、令和4年度につきましては14名と減っている状況になっております。このことと、逆説的な言い方かもしれないのですが、時間外平均全体が先ほど私のほうからは増えていると言ったものの、360時間を超える職員は減ってきているといった現状を併せますと、業務の平準化ということは徐々に進められてきているのかなといったふうには受け止めているところでございます。これで終わりというわけではないのですが、そういう表れかなとは1つ考えていました。

また、もう一つです。前回の答弁では不足しているのは10名とお答えしておりましたが、現在は13名となっております。この理由の一つとして申し上げますのは、今年是在職中に亡くなられた職員がおられましたことや、不祥事により免職とした職員などもございました。また、入庁したのですが、資格を取りましたので次の仕事に就きたいといった職員、そういった突発的な事象が重なりまして、昨年とは異なる要素がありましたことから、そうしたことがなければもっと改善できていたかなというふうには思っておりますが、結果としては13名、今、不足している状態でございます。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） これは職場改善が一部はされているという理解もできないわけではないですけれども、特に労使間でやっぱり人事院勧告をいろいろと尊重しながら、何事も労使間の合意の下にこれまで進めてきていると思っております。

そこで、先ほど言われた年間360時間、三六協定でそれが一つの大きなガイドラインになっているのです。そこを超えている職員が前回19名から今回14名、5名減ったと言われておりますので、確かに改善はされてきているのかなというふうに理解はしておりますが、該当者には振替休日やいろんなそういう策を取っていると思います。そういうことで積極的に、振替休日を含めて安心して仕事ができる、そういう職場環境をつくってほしいと願っています。

私のほうからは、サービス残業という言葉はなくしたいのですよ。だから、所属長が、恐らくチェック機能が働いていると思うのですけれども、その辺が本人の申請なのか、所属長だけの判断でやっているのか、サービス残業との関係で何か見解があればいただきたいと思っております。

◎議長（武田悌一氏） 総務課長。

◎総務課長（萬年剛至氏） サービス残業と、あとその前にもう一ついただいていた時間外を代休でつけている職場、そういったところのこともお話しさせていただきますと、時間外を代休で処理している状況につきましては、令和3年度では14名おりましたが、令和4年度からは3名に大きく減少しているところでございます。こちらにつきましても、ただ、その3名につきましても代休となっておりますが、そのことについては3名中2名はもう既に全て取得済みで、残り1名につきましても早期で取得できるように、今、

指導しているところでございます。

そのほか、サービス残業につきましては、基本的には行わせておりません。そういったことはないようにして、時間外勤務として命令してつけたものにつきましては全て出すという姿勢で、今、進めておりますので、そのように御理解いただければと思います。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 全国でやっているアンケートを含めて、一定の若い職員が、プレッシャーがかかるというのか、これがやっぱり全国ですよ。アンケートの中でもパワハラだとか、長時間労働がやっぱり一番大きい要素になっています。こんなことを少しでも解消するためにも、ぜひとも職場改善を含めて皆さんも取り組んでほしいなど、そこだけ要請して終わりたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 次に、ふるさと納税の関係。

◎10番（谷津邦夫氏） 今、理事者のほうから、9月からもう既に地場産品の三笠産米を精米するような加工場誘致のために取り組んでいると。大変前向きなことを考えているなというふうに思います。

私も、よく澤田議員と話しするのですけれども、三笠の米はJAいわみざわで空知産米でやっているけれども、とにかくおいしいのだと。それは何でかということ、この前から澤田議員も言っていましたけれども、泥炭地を見るときに、今は随分改善されていますよ。でも、やっぱり三笠産米は、ちょっとその辺が品質は上だと。昔、私も農家をしていましたけれども、昔は萱野地区含めて野々沢米はすし米だと言われるぐらい、今も大里含めて一連のあの土地は非常においしい米が作られております。とにかく、納税者の方々から例えば苦情が来たときに、今の米ではなくて、それはなぜかということ、温かいうちはもう本当においしいですよ、どこの米もね。ところが、御飯を冷めてから食べると味が変わっているというか、その点では三笠産米は非常に味がいいということは、そこだけはみんな品質は保証できると思います。そういう苦情にも対応できる三笠産米をぜひとも作ってほしいなど。そこだけは要請しておきたいと思います。

このことについて、具体的に取り組んでいるというわけですから、明るい展望を持っているということでもろしいですね。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 三笠米、本当においしいということで、ちょっと一端を御紹介させていただきますと、いろいろなサイトで寄附を募集してございます。例えばコメントで「とてもおいしいお米でした。家族みんなでいただきました。生産者さんのこだわりを感じました。来年もまた頼もうと思っています」というようなお声をいただいています。また、三笠産の米に限らずタマネギも「段ボールいっぱい。新鮮なタマネギが届きました。いろんな料理に使えるタマネギは常備品。とてもおいしかったので、またリピートしたいです」というようなコメントを農産品、本当においしいという評判を得ているところです。今後も、先ほど申し上げました精米所の件、一生懸命取り組んでいきますの

で、よろしく申し上げます。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 自分が米にこだわるのは、何と云って根室も紋別も米は売っているのですよ、実際に地場で作っていないわけですから。今、北海道のほうに登録すれば、もうそれはすぐ返礼品で使えます。だから、三笠でもホタテを売ることできるのですよ、道に登録すれば。でも、まさか三笠で何か苦情が来たときに、品質等の保証やら衛生上の問題で何かあったときには、誰もこれは対応できませんよ。だから、そういう意味で、もう今からそういうことも含めて対応してほしいなということだけはお願いして、この件については終わります。

◎議長（武田悌一氏） 次に、市民参加のまちづくりについて答弁願います。

企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 市政懇談会のあり方の部分につきまして答弁させていただきます。

例年10月から11月にかけては連合町内会単位で開催しまして、毎年、市政に関するテーマを設けて、住まいの地区が違って都合のよい時間に開催する会場で参加いただけますよう、広報、それから回覧板などを通じて市民周知を行って、開催させていただいているところでございます。過去の参加者の年代も考慮しまして、連合町内会会長と事前に打合せをし、開催時間の工夫等も行い、午前中だけではなく夜間開催を設けながら、少しでも多くの方に参加いただけるよう取り組んでいるところでございます。

その中で、今年度の参加状況としましては、残念ながら1地区だけ参加者が集まらず休会となりましたが、総数64名の参加でございました。多いところで13名、少ないところで4名、平均しまして1地区当たり8名程度の参加となっております。コロナ禍においても市政懇談会は休止せず工夫して開催し、その間の参加者数は、令和2年が89名と、令和3年度は100名、昨年令和4年度は79名と、いずれも今年度よりも多い参加数でございました。

参加者数が減少傾向の要因としましては、1つは協働ルーム、これが徐々に地域に浸透しまして、地域の課題等に対応できていると思っております。それから、まちの大きな課題でありますとか取組につきましては、個別の説明会を開催させていただいております。その事案について市民の声をお聞きできていることが一つの要因と推察しております。

私どもとしましては、市政懇談会は長年継続して取り組んでいる事案でありますので、急に廃止するというのは難しいかと考えており、本年の市政懇談会でも触れておりますが、デジタル化の時代にもなってきましたので、それらの技術の活用を視野に入れながら、来年度以降の市政懇談会のあり方を十分検討してまいりたいと考えております。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 昨日もちょっと答弁でありましたけれども、いろんな市民にアンケートで、これまでその声というものを生かしているというふうに私は思っております。

す。まちづくりですから、これだけということにはなりません。多くの要素が絡んでいます。

そんな中で、昨日も移住・定住者からもアンケートをもらっていますよ。昨年の第9次総合計画策定のためには、職業別やら小中高校生やら若年層だとか、いろんなそういう各種の方の声を聞いています。あるいは地域公共交通計画策定、今年3月ですね。そのためにもアンケートを実施している。あるいは立地適正化計画が今年の3月に出ましたけれども、その策定のためにも多くの市民の声を聞いている。このことがやっぱり市民参加の一つの方法だというふうに思っています。1か所に集めて聞くということも方法の一つかもしれないけれども、もうそろそろ限界が来ていると。いろんな要素がありますから、そこは言いませんけれども、ということで現在のあり方については検討の余地ありだというふうに思っています。

今、答弁ありましたように、協働ルームがこれからの市民参加の方法の一つとして大きなポイントになるかというふうにも思っておりますし、いろんなまちの課題を説明会等で何回もいろんな方策でやっています。特に、今は市立病院も含めたいろんな計画段階ですけども、これもやっぱり市民の声というものを説明しながら聞いてほしいなというふうにも思っております。ある町内会に行ったときに、これは市議会も議会報告会と意見交換会をしているのですけれども、今の三笠市政もみんなが頑張っていると。だから、もう市政に対して何も質問、注文することないから、みんな満足しているのではないのと。だから、市政懇談会に来ないのではないのと。市議会のこの意見交換会も、議員が市民の代弁者として頑張っているから、もう市民はみんな満足しているのではないのと、そういう皮肉的な要素も含めて言われまして、そんな考え方もあるものなのかなと思っておりますけれども、とにかく市政懇談会のあり方については、ぜひ検討してほしいというふうにだけ申し上げて終わりますので、何かあればもらいます。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 先ほども申し上げたとおりなのですが、今後、来年度以降の市政懇談会のあり方、早ければ来年度早々にでも連合町内会、やっぱり丁寧な説明して相談をしながら、また新たな形を構築していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） 最後に、経済産業の活性化について答弁願います。

産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） それでは、私のほうから次世代半導体産業という部分で、市町村ネットワークからの情報共有の現状ということで答弁させていただきます。

次世代半導体産業につきましては、令和5年3月14日に施行されまして、北海道次世代半導体産業立地推進連携会議設置要綱というものができまして、これが厚生労働省の北海道労働局、経済産業省の北海道経済産業局、国土交通省の北海道開発局、環境省の北海道地方環境事務所、それから自治体として千歳市と北海道の構成により設置されました。

この連携会議の下に情報共有を目的とした支援チーム、それから市町村ネットワークの設置ということで、参加の呼びかけがあったものでございます。これによって、当市も情報収集を目的としまして、お知らせのとおり本年7月25日に参加したものでございます。

現在、提供されております共有事項としましては、有識者懇話会の情報だとか、ワーキンググループの開催経過、半導体関連のセミナーの開催の情報などが、メールによって共有されている状況となっております。それぞれの会議内容等については、新聞で出ていような内容でございまして、水源地の選定だとか、あとは北海道半導体関連産業振興ビジョンの策定というような状況だとかありまして、ネットワーク構成市町村が今後どう動けばいいかというような情報というのは、特に今のところは入ってきていないような状態でございます。

この北海道半導体関連産業振興ビジョンの素案というのが最近我々にお知らせありまして、その内容を若干お話ししますと、これは世界最先端、最高水準の半導体を北海道から世界に届ける次世代半導体の製造拠点を目指し、製造、研究、人材育成を産学官が連携しまして、北海道全体の産業活性化と持続的発展につなげるものとするようなビジョンということでございます。まず、製造については、関連企業の誘致だとか道内の既存の半導体製造企業の取引拡大などの取組という部分、それから研究部門については道内企業の研究、開発、それから技術の部分について支援などの取組をします。それから、人材育成という部分で、今現在、北海道には6大学、4高専等がございまして、それが半導体関連の学部、学科を有している中で、6割が道外の企業に就職している状況と。中でも、北大においては半導体関連の学部、それから大学院の就職者のうち何と85%が道外に就職しているという状況でございまして、道内企業での人材確保だとか、持続的に今後、半導体産業を支える人材の育成を図る取組を進めていくことを想定しながらビジョンをつくるというような状況になっています。

このビジョンにつきましては、今後パブリックコメントを実施しまして、3月中旬から下旬に策定が完了するというような状況になっております。このビジョンが出来上がったら、それぞれまたその下の市町村に下りてきて、本格的な取組が進むのかなというふうに考えています。ただ、いろいろ動き、企業誘致を含めてありますので、今後も共有される情報の収集だとか、企業から情報収集を今も行っているのですけれども、それぞれ半導体産業関連企業だとか、物流関係企業の誘致を含め、当市の経済活性化につながる取組を進めてまいりたいというふうに考えています。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 関連企業の今後の誘致を含めて、少しでもプラスになるような条件下に三笠のまちはあるというふうに私は認識しております。南空知といっても、この4市5町の中でも三笠は、地の利を含めたいろんな要素があります。

そこで、やっぱり積極的に売り込んでいくというか、こういうこともこの三笠のまちな

今後のためには大きな人材の流出も含めたやはり対策上、今からいろんな角度で若者に夢や希望やロマンをやっぱりこっちから情報を共有するというか、発信をしていく必要があるというふうに考えているのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） 今後の取組として、企業誘致の立場として私から、その後、若者移住定住含めた部分を三好部長のほうから答弁させていただきますが、やはり当市は交通アクセスの優位性を含めて、半導体関連産業の誘致などを積極的に行っていくことと現在しております。半導体製造そのものの工場となれば、やはり新聞にも書いていますけれども、良質で多量の水が必要だという部分だとか、あとは安定した電力が必要だとか、物流の条件が整っているというような部分もございます。やはり水道代だとか電気代、それから今盛んに言われていますのが再生可能エネルギーの活用という部分がございます。様々な条件がございます。それら条件整理をしながら、我々が目指すのはやはり関連産業の誘致、ここら辺に対する優位性を、アピールポイントを整理しながら誘致に取り組んでいきたいなというふうに考えています。

現在、北海道のほうの水素エネルギー担当とこのラピダス関係の担当を同じ方がやっているという部分がございます。今、地下ガス事業における情報交換、事業の推進について逐次協議を行っているところなのですけれども、この中でやはり三笠のアピールポイントとしましては、次世代のエネルギーである水素という製造に取り組んでいるという部分がございます。現在、ラピダス関連のお話もそちらのほうとさせていただきながら、関連企業の誘致活動につながる情報だとか、それらの収集、それから既に道の企業誘致担当だとか、関係する電力会社にも可能な限り三笠市の、今、取組を含めてPRをやっている状況でございます。また、現在、企業誘致等における制度も、御承知のとおり産業開発促進補助事業、商工業等元気支援事業だとか、やる気応援事業だとかというような制度もございますので、この辺も含めてしっかりアピールしながら誘致活動を進めてまいりたいというふうに考えています。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 私のほうから、移住・定住の視点で御答弁させていただきますければと思います。

先ほど中原部長からもありましたが、7月25日に市町村ネットワークの説明会がありまして、それに参加させていただいたと。千歳市への通勤圏である地の利を生かして三笠市の移住・定住をPRできると考えまして、その後、早速8月10日に北海道のネットワークの担当部署である次世代半導体戦略室、これに早速お伺いさせていただきました。そのときに、市としては、遠距離通勤助成、それから若者移住定住促進家賃助成、子どもの医療費助成事業など、三笠市から市外の離れた地域で働いていても三笠での暮らしをサポートする制度があり、遠くでは、現在、苫小牧に通勤している方もいますと。今後、千歳市への人口流入が進み、結果、住宅需要の問題が出てくると思うので、ぜひ通勤圏内と

して三笠市を居住の選択肢に入れていただけるよう、北海道からラピダス及び関連企業に伝えていただきたいというお願いをさせていただいたところでございます。

また、この市町村ネットワークを活用しまして、直接ラピダス等へアピールする機会をつくっていただきたい旨も併せてお願いしてきているところでございます。

その後、9月19日の北海道新聞では、千歳の住宅地の上昇率が全国一と1面に取り上げられ、予想していたとおり、ラピダスの進出によりまして住宅需要の高まりを見せております。今後、千歳周辺の南空知の自治体でも、関連企業の誘致、それから住宅需要に期待を寄せておりまして、当市としまして、ほかの自治体に遅れを取らないよう、機会あるごとに積極的に働きかけを進めてまいりたいと考えているところでございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） この事業は、もう日本だけではなくて、海外の企業からもいろんな意味で資本参加、いわゆる協定を結びながら、いろんな角度からこういうものに参画していきたいと、そういう意思表示をしています。もう具体的になっています。

そういう中で、ラピダスのほうでも、再生可能エネルギーの開発だとかゼロカーボン化に向けて積極的にいろんなものを活用していきたいという、こういうことも言っていますので、うちらで今取り組んでいる石炭地下ガス化を含めて、いい素材が三笠にはたくさんあるなという気がしております。特に、今まで企業だとか道に向けて具体的にこういう行政側から行動、発信をしているということで、これは大変積極的にやっているのだなということで、改めて私も感謝申し上げたいというふうに思っています。この機会にもし市長から何かあれば、いただきたいというふうに思っています。

◎議長（武田悌一氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） 私どもとしては、これ、話が出て聞いてから、すぐに私のほうから各所管に指示をして、三笠の可能なものについて全て取り組みなさいというふうに言っているところであります。

道の考え方は、やはり苫小牧から札幌を經由して石狩に向けてのいろんなものを配置というようなことを強く考えているようでありまして、その中でも、私どもでも拾えるものはあるのではないかとこのように言っております。できる限り道とのアプローチを強くしてということで、また一方で、今年の中道の市長会の中では、ラピダスの会社のたしか副社長さんだっと思っておりますが、いらしていただいて、いろいろお話をさせていただきました。すばらしい産業であることは間違いありませんけれども、ちょうど同じテーブルに私になりましたものですから、御挨拶だけはさせていただいたのですが、なかなか次から次とほかの市町村も殺到するものですから、十分なお話しできず挨拶程度で終わったということでございます。

今後、私どもも企業誘致も含めてできる限り、私どもでは二酸化炭素対策もできるようになっていくのだろうというふうに考えておりますので、そうすると、大きな影響を与えられるかなど。また、ラピダスだけではなくて、ラピダスの関連産業の中で二酸化炭素を

どうしても排出しなければならないような企業があった場合に、そういった企業についても私どもには十分受入れ可能なのではないかというふうに考えているところであります。しっかりとこの部分についてはこれからも注視しながら、どこまでやれるかは全く計り知れないところでありますけれども、頑張ったいというふうに思っております。

それから、谷津議員からいただいた御質問の中で最初の部分の市の職員配置の問題が本当に私にとっては今本当に最大のテーマでありまして、本当になかなか応募がないと。あっても、前回も申し上げたと思いますが、なかなか点数を私どもが想定している点数まで達していただけないとか、あるいは規定の時間内で作文をまとめ切れないような方々がおられまして、こういう方を採用してもなかなか、今後の問題が起きるといことで、これは御遠慮申し上げていると。

一方で、既存の職員の中でも、やはり谷津議員のほうからも何度か若い職員というふうにお話がありましたが、本当に全く価値観が変わってきているのだなというふうに思います。比較的簡単に転職を考えるような時代でありますし、なかなか仕事の面でも、私どもが若い頃に取り組んだような働きまでは、また価値観の違いでいかないのだろうなというふうに思っています。非常にそのところは所属長にもいつもお話をし、とにかく大事にしてくれということと、一方で全く甘えというのは駄目だよということは私しつこく言っております、甘えと怠けはやっぱり市民に対して失礼なことでもありますので、そのところだけはないようにしながら、しかし我が職員を大事にしてもらいたいという話をいつも申し上げているところであります。今後もその路線についてはしっかりと守っていきながら、できる限り有能な職員を確保してまいりたいというふうに考えているところであります。

あと、ふるさと納税に関しましては、米の部分について若干システムが変わっておりますが、私どもとしては、そのことについては取り組んでいけるのだろうというふうには今のところ思っております。去年のような金額にまで今年がいくのかどうかはちょっと分かりませんが、比較的順調に御支持をいただいているということのようであります。三笠市にとっては極めて貴重な財源でありますので、これはもう大事に大事に守っていきたい、伸ばしていければいいなというふうに考えているところであります。

市政懇談会の部分につきましては、これは私、市政懇談会の中でも今年ずっと申し上げてきましたように、デジタルの時代にもなじむ市政懇談会のあり方、市政懇談会というものなのかどうかはちょっと分かりませんが、デジタルの時代に夜遅くに皆さんをお集めして大変な寒い中で来ていただくようなことにどうしてもなりますし、そういう意味ではそういう時代は今去ろうとしているのではないかということもありまして、大事なことは、できる限り多くの市民の御意見をいただいて市政運営していくということでもありますので、そういったものになじむような市政懇談会、市政懇談会と言うべきか、市民の意見を聞くシステムをきちっとしっかりしていく、そういうふうに考えてまいりたいと思っております。

以上申し上げて、谷津議員の御質問にお答えしたいと思います。

(「以上で終わります。ありがとうございました」声あり)

◎議長(武田悌一氏) 以上で、谷津議員の質問を終わります。

これをもちまして、通告のあった質問は終了しました。

◎日程第2 議案第73号から議案第81号までについて(総合常任委員会付託)

◎議長(武田悌一氏) 日程の2 議案第73号から議案第81号までについてを一括議題とします。

前回の議事を継続し、一括して質疑を受けます。質疑のある方は御発言願います。

(「なし」の声あり)

◎議長(武田悌一氏) 質疑ないようですから、質疑を終了します。

ただいま議題となっております議案第73号から議案第81号までについては、総合常任委員会に付託します。

◎日程第3 議案第82号から議案第84号までについて

◎議長(武田悌一氏) 日程の3 議案第82号から議案第84号までについてを一括議題とします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長、登壇願います。市長。

(市長西城賢策氏 登壇)

◎市長(西城賢策氏) 議案第82号から議案第84号について、一括して提案説明申し上げます。

最初に、議案第82号三笠市証明等事務手数料条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は、戸籍法の一部を改正する法律の施行に伴い、戸籍電子証明等の手数料について必要な改正を行うものであります。

改正の内容は、戸籍事務の広域化により本籍地以外での戸籍及び除籍の謄本の発行を可能とし、その手数料を規定するものであります。

施行期日は、令和6年3月1日であります。

次に、議案第83号三笠市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は、産前産後期間の国民健康保険料の軽減制度の創設により、必要な改正を行うものであります。

改正の内容は、出産予定日または出産日が令和5年11月1日以降の方を対象に、出産予定日または出産日が属する月の前月から4か月間の所得割保険料と均等割保険料を軽減

するものであります。

施行期日は、令和6年1月1日であります。

最後に、議案第84号令和5年度三笠市一般会計補正予算（第7回）についてであります。今回の補正は、既定予算額135億9,649万円に1,509万4,000円を追加し、予算の総額を136億1,158万4,000円とするものであります。

まず、歳出であります。三笠市H-UCGブルー水素サプライチェーン構築実証事業の追加により、必要な経費を措置するものであります。

一方、歳入については、特定財源として、NEDOからの3分の2の助成金を措置し、一般財源については財政調整基金繰入金を計上するものであります。

以上、議案第82号から議案第84号まで一括して提案説明申し上げますので、御審議くださいますようお願い申し上げます。

◎議長（武田悌一氏） これより、質疑を受けます。質疑のある方は御発言願います。

（「なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 質疑ないようですから、質疑を終了します。

ただいま議題となっております議案第82号から議案第84号までについては、総合常任委員会に付託します。

◎休 会 の 議 決

◎議長（武田悌一氏） 休会についてお諮りします。

議事の都合により、12月16日から12月20日までの5日間、休会したいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

12月16日から12月20日までの5日間を休会することに決定しました。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

◎散 会 宣 告

◎議長（武田悌一氏） 本日は、これもちまして散会します。

御苦労さまでした。

散会 午前11時33分

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

令和 年 月 日

議 長

署名議員

署名議員